

単元	指導内容	評価規準
「ガイダンス」 「レタリング」 明朝体・永 明朝体・氏名  「色を学ぶ」 「色相環づくり」  「美術館へ行ってみよう」	①美術室のルールと新しい科目となる美術とは何かを理解して授業を受ける態度を学ぶ  ① 朝体の学習をとおして、文字のバランスやプロポーションを学ぶ。 ② 明朝体で名前を書く。見本を写すのではなく、点画を組み合わせて自分の名前を明朝体にしていく。 ③ 答え合わせ・振り返り・鑑賞  ① 色の三要素を知り、三原色で色相環を作り、色彩の変化と調整に気付かせる。 ② 筆や絵の具の基本的な使い方を学び、適切な着色の方法を知る。 ③ 振り返り・鑑賞  ① 美術館での注意点やルールを学び、美術館の役割と仕事を知る。 ② 人に伝わる説明と実感の伝わる工夫、構想をまとめる方法を知る。 ③ 本制作は夏休みの課題	(態度) 美術で学ぶ意義に興味を持って聞いている。 (思・表) 提出物をルールを守って出している。  (態度) 美しくデザインされた文字に関心を持ち、その知識を生活に生かす。 (思・表) 点画の特徴的な形に気づき、文字のバランスなどに気を付ける。 (知・技) 塗りつぶしや定規を使った直線ができています。 (態度) 書式のルールや良さに気づき、より近い形にしようとしている。  (態度) 積極的に作業に取り組み、片付けや準備が適切に行える。 (思・表) 色相環の構造を理解し、明確な色の変化を作り、混色できる。 (知・技) 水彩で混色やムラのない平塗ができる。はみ出さずに塗る。  (思・表) 見た人に伝わるような文章で美術館を紹介している。読みやすい構成を考えている。 (態度) 充実した内容で考えを表現しようとしている。
「空想画とモダンテクニック」  「レタリングとデザイン」	① モダンテクニックの技法と偶然できた形から生まれる自由な発想を、教科書の作品を中心に学ぶ。 ② 筆で描くことにとらわれず、モダンテクニックを使って偶然できた形をもとに作品を作る。 ③ 作品を見る人のことを考え、想像力を広げるような題名をつける。 (文化祭展示作品)  ① それまでに学んだ知識を活かし、スケッチブックの表紙に自分の名前を、大きさや色、配置に気を付けて構成する。 ② 見た人に伝える構成を考え、デザインとは何かを知る。 ③ 振り返り・鑑賞	(態度) 積極的に作業に取り組み、準備や片付けが適切に行える。 (思・表) 偶然できた形や、技法を発想豊かに扱うことができる。 (知・技) 説明の通りに道具や技法を適切に使えている。 (態度) 自他の作品の良さを感じとろうとしている。  (態度) 積極的に制作している。 (思・表) 見た人に伝わるような、的確な配色・構成している。 (知・技) これまで学習した内容を踏まえ、レタリングと着色の基本を作品に生かしている。 (態度) 自他の作品の良さを感じとろうとしている。
「暮らしの中の木の工芸品」 箸のデザイン  作品鑑賞会	① 生活の中にあるデザインに目を向け、使うことを考えたデザインについて学ぶ。 ② 木食器として箸をデザインを考える。 ③ 六面図を描き、アイデアを具体化させる。 ④ 彫刻刀の使い方を学び、木彫で形を彫りだす。 ⑤ 彩色し、ニスで仕上げる。 ⑥ 振り返り・鑑賞  ① 制作した作品を振り返り、鑑賞会をする ② 感想カードを書き、感想を発表する	(態度) 積極的に制作している。安全に配慮し、片づけなどもしっかりできる。 (思・表) 制約のある中で、自由にアイデアを出している。彫刻刀の使い方を理解する。 (知・技) 制作手順を理解し美しく制作している。 (知・技) 自分の感じ方を大切にしながら、美術作品に親しみ、自分の考えを述べることができる。  (知・技) 自分の感じ方を大切にしながら、美術作品に親しみ、自分の考えを述べるができる。